

夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし

▶1ページより

■ 渋沢栄一翁に学ぶ

さいたま市誕生25周年の節目に当たり、私たちは、過去を振り返るのみならず、先人たちの根底にある精神から多くを学び、彼らが遺した叡智を深く理解して、本市の未来を形作るための確かな羅針盤にしていかなければなりません。

埼玉県出身であり、本市の鉄道や人形などの歴史・文化、そして近代日本の発展に大きな功績を残した渋沢栄一翁は、その著書『論語と算盤』の中で、次のような言葉を遺しています。

「事を行うには、まずその理を明らかにせざるべからず。」

渋沢翁は、農家に生まれ、家業の手伝いを通じて商売の基本を身に付ける傍ら、幼少期から学んできた「論語」の影響も受けて、道徳に適う経済活動の必要性を提唱しました。幕臣に登用され、パリ万博や欧州各国を訪問した際にも、我が国の発展に向けて近代国家としての基礎を構築するためには、あらゆる主体が一丸となって社会公益を追求していく必要があることを痛感するに至ります。帰国後、渋沢翁は、この「公益」を第一とする信念の下、約500もの企業の設立・育成に尽力しましたが、その根底にあったのが、今御紹介した言葉です。

これは、「事業を行う際には、必ず道徳的・倫理的な大義名分や目的を明確にしなければならない。社会全体の利益に資する事業こそが、長期的かつ永続的に成功する」という教訓です。

先ほど、令和8年度に本市が実施する事業について御紹介しましたが、それぞれが本市の利益や全体最適にどう繋がるのかというこ

とを常に問い質し、市民の皆様様に丁寧に御説明していく姿勢こそ、本市が、皆様と共にシンカし続ける上で必要不可欠な要素であると言えます。

また、渋沢翁のお考えを表す言葉として、次の「夢七訓」も語り継がれています。

「夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。ゆえに幸福を求むる者は夢なからず。」

これは、夢を持つことが幸福に辿り着く、最初にして最も重要な一歩であることを強調した言葉です。

まさに、市民一人ひとりが未来に向けて「希望(ゆめ)」を描き、それを実現し、しあわせを実感していただけるまちづくりこそ、私が市長就任以来追求してきた、私の「希望(ゆめ)」そのものです。

令和8年度からは、次の5年後を見据えて明確な目標を掲げた、新たな「総合振興計画実施計画」も始動いたします。四半世紀のさいたま市政を支えた先人たちの思いを胸に刻み、市民、企業、団体等の皆様とも協働しながら、この計画を一丸となって着実に実行し、成果をしっかりと生み出すことで、本市の輝かしい未来へ向けて、歩を確実に進めていくことを改めてここに誓います。

さあ、次の25年先へ。シンカする大都市さいたまの未来を、共に創ってまいりましょう。

令和8年度施政方針(2月3日 さいたま市議会本会議場)



四半世紀、25年という月日が流れました。

25年前、浦和、大宮、そして与野の3市が合併し、人口約100万人の都市として新たなスタートを切った本市は、常に未来に挑戦し続けてまいりました。

平成15年に「政令指定都市」へ移行し、平成17年には岩槻市と合併したことで、首都圏有数の大都市として歩み、発展するための礎が築かれました。この間、私は、現場主義を徹底し、市民の皆様の声に耳を傾け、時には困難な課題に対しても、真正面から向き合い続けてまいりました。

- ◆「待機児童ゼロ」= 保育施設の待機児童を4年連続でゼロ
- ◆「ノーマライゼーション条例」= 誰一人取り残さない共生社会
- ◆「5K」= 「強靱性」、「交通の要衝」、「環境」、「教育」、「健康・スポーツ」という5つの魅力を強化
- ◆都市インフラ= 2都心・4副都心を機軸
- ◆市役所移転= 令和4年4月、市議会において可決
- ◆環境= 全国で初めてとなる「脱炭素先行地域」に選定
- ◆「グローバル・スタディ」= 「地域とともにある学校づくり」
- ◆「スポーツ都市ランキング」1位= 全国106都市の中で第1位

■さいたま市民全体のしあわせを

本市は、現在、人口約135万人を擁する大都市へと成長を遂げました。それだけでなく、6年連続で85%以上の市民の方々から、「住みやすい」、「住み続けたい」と感じていただけるような、活力にも満ちあふれております。

この25年間の歩みは、私たちに確かな手応えを感じさせてくれました。しかし、都市の歴史において四半世紀は通過点に過ぎません。私たちは、この輝かしい成果を礎に、次の25年後、2050年における「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」という2つの将来都市像の実現を見据え、新たな「シンカ」のステージへと駒を進めていかなければなりません。

市誕生25年からのシンカ



令和8年度市政の考え方とすすめ方 清水勇人市長

■さいたま市誕生25周年を迎えて

令和8年度、さいたま市は一つの節目を迎えます。平成13年5月1日の「さいたま市」誕生から

■さいたま市の新時代に向けて

- 安全で強靱な都市へのシンカ
- 誇りあふれる都市へのシンカ
- 「誰一人取り残さない」しあわせ実感都市へのシンカ
- 絆で支えあう都市へのシンカ

■シンカし続けるまちへ

暮らしを高め、共創で希望(ゆめ)を拓く令和8年度予算

令和8年度当初予算案は、「シンカし続けるまちへ。暮らしを高め、共創で希望(ゆめ)を拓く予算」として4本柱で編成。

1. 災害に強く安全・安心な都市への対策強化
2. 未来のまちを拓くさいたまらしさの深化
3. 誰一人取り残さない地域共生社会の実現
4. DXと共創によるまちづくりの推進

- ・一般会計当初予算額7,160億円(対前年度比1.8%増)
- ・特別会計予算総額は3,461億円
- ・企業会計予算総額は1,379億円
- ・全会計予算総額は1兆2,000億円となり、一般会計予算額と全会計予算総額のいずれも過去最大の予算規模となりました。

■令和8年度の主な事業等

- ▼災害に強く安全・安心な都市への対策強化
- ▼未来のまちを拓くさいたまらしさの深化
- ▼誰一人取り残さない地域共生社会の実現
- ▼DXと共創によるまちづくりの推進

■総合振興計画の重点戦略関連事業

- ①ゼロカーボンシティ実現と豊かで多様な自然環境の未来へ継承
- ②一人ひとりが“健幸”を実感できるスマートウェルネスシティ創造
- ③笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の創造
- ④子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の創造
- ⑤東日本の未来を創る対流拠点都市の創造
- ⑥子どもから高齢者まで、あらゆる世代が輝けるまちづくり
- ⑦激動する新時代に「未来技術」で躍動する地域産業づくり
- ⑧災害に強く、市民と共につくる安全・安心なまちづくり
- ⑨環境に配慮したサステナブルで快適な暮らしの実現
- ⑩絆で支え合い、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり
- ⑪質の高い都市経営の実現

▶4ページに続く

令和8年.2.8総選挙比例代表 さいたま市区別政党得票 県民公論社編集											
順	西区(4議席)	北区(6)	大宮区(5)	見沼区(8)	中央区(4)	桜区(4)	浦和区(7)	南区(9)	緑区(6)	岩槻区(5)	市計(区定数)
1	自民14,265	自民24,211	自民20,782	自民24,041	自民17,865	自民13,096	自民29,515	自民28,915	自民20,400	自民15,906	①自民208,996
2	中道9,361	中道13,982	中道11,389	中道15,487	中道9,558	中道8,045	中道15,433	中道14,367	中道10,897	中道10,051	②中道118,570
3	国民4,102	国民8,002	みらい7,204	国民7,420	国民6,034	国民4,597	みらい11,864	みらい11,251	国民6,704	国民4,255	③国民 68,868
4	参政3,377	みらい7,335	国民6,843	みらい6,465	みらい5,816	みらい3,898	国民10,163	国民10,748	みらい6,186	参政3,703	④みらい66,537
5	みらい3,260	参政5,450	参政4,178	参政5,612	参政3,562	参政2,970	参政5,353	維新7,061	参政4,821	みらい3,258	⑤参政 45,212
6	共産1,867	維新3,442	維新2,964	維新3,529	維新2,617	維新2,888	維新5,044	参政6,186	維新3,280	維新2,243	⑥維新 34,842
7	維新1,774	共産2,664	共産2,297	共産3,417	共産2,117	共産1,996	共産3,771	共産4,089	共産3,098	共産1,934	⑦共産 27,250
8	保守1,077	保守2,003	保守1,724	保守2,011	保守1,411	れいわ1,238	保守2,432	保守2,837	保守1,758	れいわ1,264	⑧保守 17,642
9	れいわ1,001	れいわ1,713	れいわ1,333	れいわ1,966	れいわ1,190	保守1,203	れいわ1,931	れいわ2,145	れいわ1,654	保守1,186	⑨れいわ15,435
10	社民547	減税895	減税758	減税960	社民670	社民516	社民1,164	社民1,024	社民713	社民984	⑩社民 8,163
11	減税488	社民879	社民708	社民958	減税571	減税506	減税1,022	減税1,000	減税712	減税526	⑪減税 7,438

令和8年2月定例会代表質問

■議長：伊藤 仕 ■副議長：谷中信人

代表質問

政党・信条を同じくする「会派」を代表して市政全般にわたって質問する。

一般質問

市民の声を、市長・執行部に届ける質問。議員の活動と調査力が問われる。

会派の略称 *「無所属」はそのまま

「立 憲」＝立憲民主・無所属の会さいたま市議団

「公 明 党」＝公明党さいたま市議会議員団

「さい自民」＝さいたま市議会自由民主党議員団

「自民市議」＝自由民主党さいたま市議会議員団

「共 産 党」＝日本共産党さいたま市議会議員団

「維 新」＝維新の会さいたま市議団

「み ら い」＝無所属みらい

女性社会進出支援

Q【立憲】 女性の社会進出支援と企業支援を一体的に進め、各ライフステージに応じた支援を実現していくための連携の考え方は。

A【新屋副市長】 就労支援施設「ワークステーションさいたま」において、家庭と仕事の両立相談をはじめ、子育て中で長期的に就労を考えている方への支援なども行っている。子育て応援ブックや子育てWEB、区役所でのチラシ配架等により、同施設やマザーズハローワークといった関係機関の支援に関する周知を行っている。関係部局、機関との連携を深め、各分野の支援策と結び付けて相互に活用できる体制の強化を図り、女性が安心して働き、活躍できる環境づくりに取り組む。

国際電話ブロック

Q【立憲】 高齢の方も安心してスマホが使えるよう、「さいたま市みんなのアプリ」に国際電話ブロック機能を付加させてはどうか。

A【日野副市長】 今後、スマートフォンのセキュリティに関し高度な専門知識を有する事業者や、警察等の関係機関と情報交換を行うことで、市民が安心してスマートフォンを利用できるよう、セキュリティ対策などの啓発活動を強化する。議員提案の、国際電話ブロック機能を持つアプリに関する「さいたま市みんなのアプリ」への連携については、スマートフォンを介した特殊詐欺被害を未然に防止する上で、有効な手段の一つであると認識しているので、研究を進める。

岩槻駅周辺まちづくり

Q【公明党】 地下鉄7号線延伸に伴う岩槻駅周辺のまちづくりについて、岩槻駅周辺まちのあり方ビジョンを策定したが、その推進に向けた決意について伺う。

A【新屋副市長】 岩槻駅周辺まちづくりについては、地下鉄7号線の延伸により鉄道結節点となることから、今年度に、「岩槻駅周辺まちのあり方ビジョン」として取りまとめ、1月に公表した。今後は、まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実を図るため、まちにつながる駅出入口を含めた駅前空間の形成に向けた検討や、まちへの誘導を図るため、安全・快適に歩ける道路空間の検討などについて進める。

ドライブレコーダー119

Q【公明党】 救急・消防活動の高度化に向けたドライブレコーダー119の導入について、調査・検討を進めるべきと考えるが見解を伺う。

A【日野副市長】 ドライブレコーダー119とは、まず119番通報を受信した後、指令管制員が映像の必要性を判断し、同システム上で災害地点を指定をし、付近を走行する同意取得済み車両のドライブレコーダー映像を検索・選択し、リアルタイムで受信することで、現場の危険性把握、部隊の適正な出場判断、医療要請の早期化などに活用される仕組み。本市としては、導入の有効性等を見極めながら、実証・運用を進めている他市の効果検証や課題の整理を注視する。

大和田駅整備

Q【さい自民】 大和田駅の整備にともなう諸問題について、駅舎の完成と北口広場の整備は、ほぼ同時的なのか。

A【新屋副市長】 大和田駅の駅舎改修事業については、駅南側で施行されている土地区画整理事業の進捗にあわせて、事業を進めている。一方、駅北側の駅前広場の整備については、現在、事業化にはいたっていないが、整備の必要性を十分認識しているので、駅前広場の暫定整備など、段階的に整備効果を発現させる手法の検討を行うとともに、早期の事業化に向け、関係機関と協議・調整を進める。

見沼たんぼ桜回廊

Q【さい自民】 見沼たんぼの日本一の桜回廊では、桜の木の高齢化が進んでいる。維持管理及び散策環境の今後の展望について伺う。

A【新屋副市長】 本年度は、桜の維持管理や休憩施設の整備に活用する目的でクラウドファンディングを行い、約270万円の寄付をいただいた。次年度以降も実施をし、散策環境や景観の向上にも努める。このほか、見沼田圃内にある(仮称)加田屋公園において、ピオトープやトイレ等を設置し、さらなる散策環境の向上を図っている。またソフト面の取組として、今年度はフォトスポットの実施など、新たな企画を取り入れ、グリーンインフラ機能の一つである「地域コミュニティ醸成」にも繋げる。

令和8年2月さいたま市議会代表質問特集

注目質問・答弁抜粋(要約)(文責本紙)

*参考QRコードは本紙が選択

さいたま市の香り

Q【自民市議】 さいたま市の香り開発のプロセスと、今後の展開についてうかがう。

A【新屋副市長】 令和7年度の大阪・関西万博での、本市出展テーマである「盆栽」「人形」と併せて、さいたま市らしさを演出する手法について、香りを市のプロモーションに活用することとなった。決定した香りは、さいたま新都心をはじめとした都市的な側面と、見沼たんぼをはじめとした自然豊かな側面を表現し「アーバンガーデン」と名付けた。この香りはノベルティの配布やイベントでの活用、市内企業との連携など、新たな観光資源として市内外の皆様に認知していただけるよう注力する。

県との関係

Q【自民市議】 さいたま市民が納める県税に対し、県から市へはいくらの交付金・補助金が払われているのか。

A【佐野副市長】 さいたま市民や市内に事業所等を有する法人が負担している県税総額は、令和5年度の決算ベースで、約1,869億円となっている。一方、埼玉県から本市に交付されております県税交付金と県単独補助金の総額は、令和5年度決算ベースで、約539億円。
Q 県が市町村に対し負担する補助金等について、指定都市や中核市が除外されているものの影響額は。
A 歳入不足の総額は約47億1千万円。

レジャープール

Q【共産党】 レジャープールのあり方方針が策定されて2年経過したが、その後の進捗、検討状況を伺う。

A【新屋副市長】 令和5年11月にさいたま市レジャープールのあり方方針を策定し、令和6年11月には、オープンハウスを各所で開催し、地域の皆様をはじめとした多くの市民意見を聴取するとともに、令和7年3月には聴取した結果を市ホームページで公表した。現在は、南部エリアレジャープールの候補地について、鋭意検討を進めている。レジャープール候補地の早期公表を目指して検討を進める。

サクラソウ

Q【共産党】 国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」サクラソウの株数が、過去最低数値まで減少。サクラソウ公園は、文化財保護課が自生地と一体的管理をすべき。

A【教育長】 教育委員会と都市局は、保全に向けた取組を進めている。「田島ヶ原サクラソウ自生地連絡会」はトウネズミモチの伐採、高木の剪定・伐採などについて実施。2019年からはサクラソウの繁殖状況や生育環境を把握するためのDNA解析や土壌分析、ドローンによる地形調査、全長100メートルの農業用チューブを使ったかん水の試行などを実施。教育委員会は都市局との連携を密にし、保存と継承に努める。

南浦和駅西口タクシープール

Q【維新】 南浦和駅西口では、タクシープールがほとんど利用されていない一方、一般車の送迎スペース不足により、混雑や危険が生じ、市民の利便性が低下している。南浦和駅西口駅前広場のタクシープールの取り扱いはどうなっているのか。

A【新屋副市長】 南浦和駅西口駅前広場のタクシープールについては、駅前広場全体が市の所有地であり、道路法に基づく道路区域として、市が管理している。タクシー事業者によるタクシープールの利用にあたっては、市とタクシー事業者との間で特段の協定等は締結しておらず、市が道路管理者として道路区域内で運用している。

東大宮駅ホームレス問題

Q【みらい】 東大宮駅周辺のホームレス問題について状況が改善されず、適切な支援を出口戦略にするべきと考える。

A【新屋副市長】 対象者については、東口駅前広場内に段ボール等を山積みにして通行の妨げとなるなど、市民にご不便をおかけしている状況。対象者に自立と自主的な退去を促すため、月に2から3回の頻度で面会を実施をしているが、退去されない状況が続いている。引き続き指導を継続していくとともに、対象者が生活再建を目指し、安定した住居を確保できるように具体的な支援策を呼びかけるなど粘り強く継続的な働きかけを行い、問題解決に取り組む。

ねんりんピック彩の国さいたま2026 11.7(土)~10(火)

2024年のねんりんピック鳥取県大会に、さいたま市選手(エスポーツ)を輩出している本紙は、本県大会成功に向けて、すべての高齢者に笑顔を送るための取り組みをしています。「ねんりんピック彩の国さいたま2026市民応援団」を結成し、各種イベントでねんりんピックPR活動を展開。「埼玉県歌ひろめ隊」は、埼玉県大会を記念してプロのオペラ歌手、細沼初美さん(見沼区在住)による埼玉県歌の歌唱指導をしています。(臣)

埼玉県歌の歌唱指導

県民公論は「さいたま市CS・SDGsパートナーズ」●本紙はSDGs推進の環境適正印刷方式で作成

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 県民公論 電子版

〒330-0074 浦和区北浦和5-1-6-302 TEL.048-762-7515 FAX.048-762-7623 kenminkoron@sea.plala.or.jp さいたま市地方記者クラブ(市役所2階)